

江戸時代のあけぼの 家康 × 近江国



家康の選択 近江国に 関係する



逃走のルート?

- ① 甲賀・伊賀越え ② 紀伊半島沖を船で ③ 東海道



上洛の道?

- ① 御代参街道 ② 朝鮮人街道 ③ 中山道



大津城の廃城に際し、天守をどこに移す?

- ① 膳所城 ② 彦根城 ③ 長浜城



彦根藩の中心となる彦根城をどこの山に築城する?

- ① 磯山 ② 佐和山 ③ 彦根山



家康の腹痛を救った薬をどう名付ける?

- ① 赤玉神教丸 ② 万病感応丸 ③ 和中散



→クイズの答えはパンフレット中面をCHECK!

～彦根城を見れば、江戸時代が分かる～

戦わない城である彦根城は、約250年間の安定した江戸時代の統治を示すものとして、世界遺産登録をめざしています。くわしくはスペシャルサイトへ彦根城を世界遺産に検索

発行:彦根城世界遺産登録推進協議会(滋賀県・彦根市) 2023年3月 イラスト:E.MOMO

長浜市 1570
姉川の戦い
家康は信長と共に、湖北の榑・浅井氏と朝倉氏の連合軍と姉川を挟んで戦いました。この戦いの勝利により、家康が陣を敷いた岡山は勝山(●)と呼ばれるようになったといわれています。

姉川古戦場
アクセス JR長浜駅からバス約15分「野村橋」下車すぐ

甲良町 1600頃
藤堂高虎が家臣に
「武士たるもの、7度主君を変えねば、武士とは言えぬ」と言ったかどうか、甲良出身(●)の戦国武将・藤堂高虎は、湖北の浅井長政にはじまり、計11人もの主君に仕えたとされています。豊臣家の家臣でしたが、関ヶ原の戦いでは家康の東軍に与し、以降秀忠、家光に仕えることになりました。

高虎公園(藤堂高虎像)
アクセス 近江鉄道尼子駅から徒歩約25分

1600 朝鮮人街道で凱旋上洛
関ヶ原の戦いに勝利した家康は、京に凱旋する際に、朝鮮人街道を通じて上洛しました。のちに将軍専用の吉札の道として、参勤交代する大名がこの街道を使うことが禁じられました。なお、1607年から開始された朝鮮王朝からの友好使節団である朝鮮通信使が江戸に向かうために使ったため、朝鮮人街道と呼ばれるようになりました。日朝友好のシンボリックな街道であり、朝鮮通信使が宿泊や休憩をする際には大陸の最先端の知識を求め、多くの知識人・文化人が街道沿いに集まりました。

宗安寺(朝鮮通信使高官の彦根での宿泊所)
アクセス JR-近江鉄道彦根駅から徒歩約20分

野洲市 1601
永原御殿造営
永原御殿(●)は、将軍である家康が上洛(京に行く)する際に、宿泊や休憩をする場所として朝鮮人街道沿いに造られました。こういった将軍専用の宿館は御茶屋御殿と呼ばれ、近江には同じ朝鮮人街道の北に伊庭御殿(東近江市)、中山道に柏原御殿(米原市)、東海道に水口御殿(甲賀市)の4か所が造営されました。永原御殿は秀忠、家光の代にも使われましたが、幕藩体制が確立して以降は将軍の上洛はなくなり、1685年には廃止となりました。城郭のような構造の大規模施設でしたが、実際に使われたのはたったの10回だけでした。

永原御殿跡
アクセス JR野洲駅からバス約7分「総合体育館東口」下車徒歩約10分
写真は永原御殿から移されたと伝えられる浄専寺表門

栗東市 1611 和中散の効果実感
和中散本舗(●)は、東海道草津宿(草津市)と石部宿(湖南市)の間にある梅の木立場(間の宿)で製薬販売を営んでいた商家です。お腹が弱かったともいわれている家康。永原御殿(野洲市)を訪れていた家康が腹痛を起こした時、この薬を飲んだところ、たちどころに治ったため、家康自ら「和中散」と命名したとも伝わっています。旅人たちの道中薬として人気だったのと同時に、和中散本舗は小休本陣として大名貴人の宿泊休憩にも使われました。

旧和中散本舗
アクセス JR手原駅から徒歩約25分
入館料 500円
※春秋の特別公開期間以外は非公開
希望の方は電話問合せ(077-552-0971)

甲賀市 1600 牛が淵で暗殺未遂
水口を流れる野洲川牛が淵。ここで、上杉討伐の途上家康を暗殺する計画が謀られました。密告により難を逃れたといわれています。水口岡山城は、秀吉が家康に対する守りとして築かせた城でもあり、関ヶ原の戦い後に廃城となりました。町中に建つ大徳寺は、上洛時に家康の宿泊場所となり、境内には家康の腰掛石があります。また、水口城は家康の孫・家光の時代に上洛の宿館として築かれました。

大徳寺
アクセス 近江鉄道石橋駅から徒歩約3分

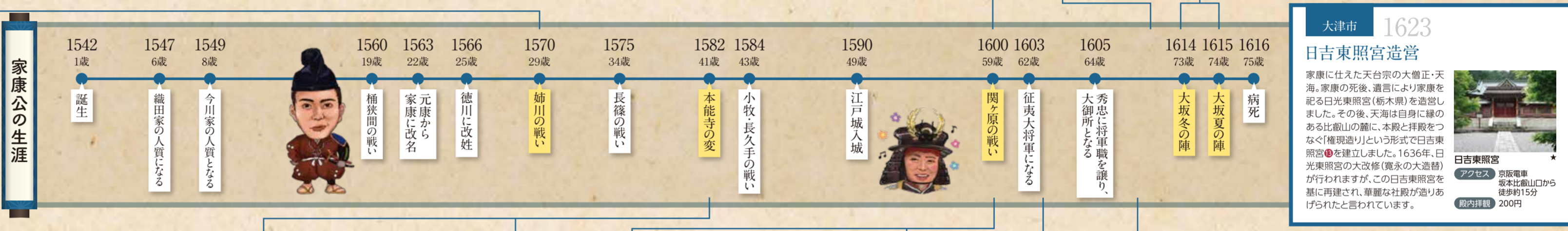
1600 関ヶ原の戦い前夜
関ヶ原の戦いの勝敗を決したのは、小早川秀秋や脇坂安治ら西軍側に布陣していた大名の裏切りによる部分が大きかったといわれています。徳川家康がその内応(裏切り)工作を実行させたのが、近江出身の武将・山岡道阿弥(景友)でした。家康が合戦に先立ち、小早川秀秋・脇坂安治の両名に出した書状には「山岡道阿弥」を介してよしみを通じていたことが明記されています。小早川・脇坂の家臣団には山岡氏出身の重臣もあり、甲賀武士で瀬田城主でもあった山岡一族の暗躍が、家康を天下へ押し上げたといえそうです。

戦後その功績で、山岡道阿弥は石高9000石の旗本となり、江戸城を守る「甲賀組」を預けられました。『徳川実記』という幕府の正式記録でも、道阿弥を徳川家「創業の功臣」と呼んでいます。あまり知られていませんが、歴史を動かした影の立役者なのです。

長浜市 1614-1615
国友から鉄砲購入
大坂冬の陣、夏の陣で家康は国友(●)から大量の鉄砲を購入し、大坂城での戦いに使用し、勝利を取りました。これにより豊臣氏は滅び、戦いの世が終わり、太平の時代へと入っていきます。

国友鉄砲ミュージアム
アクセス JR長浜駅からバス約15分「国友鉄砲ミュージアム前」下車すぐ
入館料 300円

草津市 うばがもち
今も草津の銘菓として知られる「うばがもち」。大坂の陣から凱旋する際に、80歳を超える姥が家康に餅を献じたために評判となり、その名が広がったともいわれています。歌川広重が東海道五十三次草津宿の浮世絵に描くほど有名な話。ただ、実は草津宿ではなく、その南にある矢倉の立場(休憩場所)の茶屋で供されていたのです。ここは「急がば回れ」のことわざの語源である、瀬田の唐橋を歩いて渡るか、矢倉の渡しから船で渡るかの分岐点だったため、多の旅人が賑わっていたようでした。



近江八幡市 1582
安土饗応膳
武田討伐で功を上げた家康を、信長は安土城(●)でもてなしました。接待役は明吉光秀。真偽のほどは定かではありませんが、不手際があった光秀を信長はひどく叱責し、この恨みが本能寺の変につながったという説もあるほどです。当時のおもてなし膳には山海の珍味がふんだんに使われ、近江は海なし県ですがタイ、ホヤ、アワビ、ハモなどが用いられ、ツルも食材として食べられていたようでした。

安土城跡(徳川寺)
アクセス JR安土駅から徒歩約25分
入館料 700円

甲賀市 1582
神君甲賀・伊賀越え
本能寺の変の報を明(大坂)で受けた家康。この時わずかな供回りしかおらず、一時は進退窮まり自害も考えたほどでした。どこで一抜勢や落ち武者狩りに遭うか分からない中、本拠地の三河(愛知)に向け、家康はいわゆる甲賀忍者に護衛先導され、難所を切り抜きました。途中、小川城(甲賀市)で一夜を明かしたと伝わります。この決死の進退に同行していたのが、彦根藩初代藩主となる若き日の井伊直政。この功を労い、家康は孔雀の陣羽織を与えたといわれています。

小川城跡
アクセス 信楽高原鉄道信楽駅から車約20分

1601
街道整備が始まる
家康は江戸と各地を結ぶ街道の整備を始めました。宿場や一里塚、松並木など、街道の形が整えられていきます。近江国には、5つの街道である東海道、中山道以外にも、たくさんの街道が張り巡らされ、人々が行き来していました。

▲写真は草津宿本陣
草津宿街道交流館
アクセス JR草津駅から徒歩約15分
草津宿本陣共通券 350円

大津市 1601
大津城廃城
大津城(●)は、西軍の大軍を足止めすることにより、関ヶ原の戦いでの家康軍の東軍の勝利に貢献しました。翌年には廃城となり、新たに膳所城(大津市)が造られることになりました。落城を免れた縁の良いつきであるために、家康が彦根城の天守を造らせたともいわれています。が、この天守のリサイクルは、実際は資材調達と工期短縮が主な要因ではないかとされています。大津城天守は4重5階であったと考えられていますが、5重5階の大津城に配慮してか、彦根城では3重3階に造り替えられました。

▲写真は彦根城天守

彦根市 1604
彦根城築城開始
彦根藩初代藩主・井伊直政の死後、筆頭家老・木下守勝は直政の遺志を継ぎ、当時佐和山にあった居城を移すことについて、家康に相談しました。その時、城の候補地として、彦根山、磯山、佐和山の3案が示され、城下町をひろく平地を確保できる彦根山(●)に新たな城を築くことに決めました。

彦根城
アクセス JR-近江鉄道彦根駅から徒歩約15分
入館券 800円

静岡県 1608
駿府城に移る
將軍を退いた大御所・家康を迎えるために駿府城は改修され、この普請奉行を長浜市出身の小堀政一が務めました。この功により遠江守に任じられ、以後小堀遠州と呼ばれるようになりました。その後、1619年には生誕地に近い近江小室藩(1788年廃藩)の初代藩主となります。茶人、作家として名を馳せた小堀遠州は、近江国各地にたくさの名庭園を残しています。

近江孤蓮庵
アクセス JR虎姫駅から車約15分
拝観料 300円

近江国の主な街道

東海道	五街道の一つ。江戸の日本橋から京都の三条大橋を結びました。53の宿場の内、近江には土山、水口、石部、草津、大津の5つの宿がおかれました。現在の国道1号は、ほぼ東海道に沿っています。
中山道	五街道の一つ。東海道同様、日本橋と三条大橋を結びました。69の宿場の内、近江には柏原、磯井、番場、鳥居本、高宮、愛知川、武佐、守山、草津、大津の10の宿がおかれました。滋賀県内の新幹線のルートが、おおそ中山道に沿った形です。
朝鮮人街道	中山道の西側を通る脇街道に当たるルートで、小篠原から鳥居本宿を結び約40kmの街道。中山道が安土城下を経由しないため、安土城築城時に信長が整備し、安土発展のために中山道ではなくこの街道を通ることされました。朝鮮人街道と言われる前は下街道や浜街道、京道、八幡道、彦根道などと呼ばれていました。
北国街道	中山道の鳥居本宿から北に抜け、北陸(北国)を結び街道。越前(福井県)につながりました。
北国脇往還	東海地方と北陸地方を結びルートとして、中山道の関ヶ原宿(岐阜県)から北国街道木之本宿をつないだ街道。

近江国の主な藩

御代参街道	伊勢神宮と多賀大社を結びルートとして、東海道の土山宿と中山道の小幡をつないだ脇街道。名称の由来は、皇族の代わりに参詣(代参)する人々が通った街道、の意です。
若狭街道(鯖街道)	若狭(福井県)と京都を結ぶ街道。「京は遠でも18里」、当時の人びとはこの約72kmの道のりを、若狭で水揚げされた塩漬にしたサバを担ぎ、およそ一昼夜かけて運んでいたため、鯖街道とも呼ばれています(鯖街道は他にも複数のルートがあります)。近江国では若狭から保坂を南下し朽木、葛川を通るルートと、保坂を東進し今津に抜けるルート(九里半街道ともいふ)があります。
西近江路(北国海道)	敦賀(福井県)と大津宿を結び街道。琵琶湖の西岸を通りました。
塩津街道	日本海・敦賀(福井県)と琵琶湖の北端の港である塩津を結ぶ街道。敦賀宿で荷揚げされた物資は、陸路深坂峠を越え、再度塩津港で船に積みかえ、大津港まで運ばれました。
八風街道	朝鮮人街道の黒橋あたりから中山道武佐宿を経て、八日市で御代参街道と交差し、鈴鹿山脈の八風峠を越えて伊勢(三重県)を結び街道。伊勢道とも呼ばれていました。また、途中で千種街道と分岐していました。

近江国の主な藩

彦根藩 30万石	藩庁 彦根城 主家 藩主 井伊家 領内の主な領地 彦根市、長浜市、近江八幡市、東近江市、米原市、安土町、豊橋町、甲良町、多賀町	膳所藩 7万石	藩庁 膳所城 主家 藩主 本多家 領内の主な領地 大津市、草津市、栗東市、湖南市
水口藩 2~2.5万石	藩庁 水口城 主家 藩主 加藤家 領内の主な領地 甲賀市	大溝藩 2万石	藩庁 大溝陣屋 主家 藩主 分部家 領内の主な領地 高島市、守山市
山上藩 1万石	藩庁 山上陣屋 主家 藩主 安藤家 稲垣家 領内の主な領地 東近江市	宮川藩 1万石	藩庁 宮川陣屋 主家 藩主 堀田家 領内の主な領地 長浜市
堅田藩 1万石	藩庁 堅田陣屋 主家 藩主 堀田家 領内の主な領地 1826年廃藩 大津市	小室藩 1万石	藩庁 小室陣屋 主家 藩主 小堀家 領内の主な領地 1788年廃藩 長浜市
朽木藩 1万石	藩庁 朽木陣屋 主家 藩主 朽木氏 領内の主な領地 1648年廃藩 高島市	大森藩 1万石	藩庁 大森陣屋 主家 藩主 殿上氏 領内の主な領地 1632年廃藩 東近江市

★写真は(公社)びわこビジターズビューロー